

魚の身の色

体色は銀白色で、背側は青黒い色のシロザケですが、身は赤色をしています。理由はなぜか考えたことはありますか？

サケの身が赤くなるのはエサとなるオキアミ（海に生息している）などに多く含まれる「アスタキサンチン」という色素が影響しています。そのため、海に下る前のサケは白色の身をしています。また産卵のために川に帰ってくるとエサを食べなくなり、同時にアスタキサンチンが筋肉から皮膚や卵の中に移っていくため、身の色がだんだん白っぽくなっていきます。ではマグロやカツオなどのいわゆる「赤身」の色はどこから来たのでしょうか？ マグロやカツオは一生泳ぎ続ける魚といわれております。そのため運動に必要な酸素を蓄える働きのあるミオグロビン、ヘモグロビンという物質を筋肉の中に多く含んでおり、これらの色によって赤く見えます。

